

令和7年度第1回江別市経済審議会会議録（要旨）

日 時	令和7年8月28日（木）10:00～11:30
場 所	江別市民会館（小ホール）
出席者（15）名	会 長/ 井上誠司 副会長/ 森邦恵 委 員/ 裏君子、千葉幸子、鈴木貢、中野亮二、岸本佳廣、井上剛 杉野邦彦、奥村幸広、佐藤直洋、西純一、布施望、赤川和子、西脇美貴子
事務局（15）名	経済部長、経済部次長、企業立地推進室長、商工労働課長、観光振興課長、農業振興課長、 企業立地課長、商工労働課主査、ほか7名
欠席者（2）名	委員/福沢康弘、佐々木尚弘
傍聴者（0）名	—
議事事項	報告事項 （1）経済部取組基本方針及び主要事業（予算）について （2）経済部各課主要事業について

会議録

商工労働課長	開会のことば
市長	委嘱状交付
市長	挨拶
各委員	自己紹介
経済部長	挨拶 経済部職員及びインターンシップ生の紹介（課長職以上挨拶）
商工労働課長	会議成立報告
経済部長 （仮議長）	次第の3、会長及び副会長の互選についてでございます。審議会条例の第5条により、会長及び副会長は委員の互選により選出することとなっております。各委員の皆様から、会長・副会長の選出について、何かご意見はございますか。
岸本委員	事務局案はございますか。
商工労働課長	それでは事務局から案をお示しさせていただきます。事務局案といたしましては、会長を井上誠司委員、副会長を森委員にお願いしたいと存じます。
経済部長	ただ今の事務局案について、何かご異議ございませんでしょうか。
一同	異議なし。
会長・副会長	挨拶

会長	次第の4、報告事項の(1)、経済部取組基本方針及び主要事業について、事務局よりご説明をお願いいたします。
経済部次長	それでは私の方から、経済部の取組基本方針及び主要事業について説明を申し上げたいと思います。 令和6年からの10年を期間とする第7次総合計画の中で、「都市近郊型農業の推進」、「商工業の振興」、「観光による産業の振興」という三本の取組を基本方針として位置付けており、本市が北海道の中心経済圏である札幌市に隣接しているという立地条件を生かしながら、産業政策に関する事業を進めているところです。 予算規模といたしましては、産業に関連する予算総額が、およそ23億7,900万円となっております。 引き続きまして、令和7年度事業の主要事業の詳細につきまして、各担当課長からご説明を申し上げます。
会長	それでは続いて次第の4、報告事項の(2)、経済部各課主要事業について、事務局よりご説明をお願いいたします。
商工労働課長	商工労働課の主要事業について説明(資料3~4ページ)
会長	ただいまの説明に対して、ご意見などございませんでしょうか。
裏委員	運営事業者の貸付契約についてですが、締結している事業者に関して伺ってもよろしいでしょうか。
商工労働課長	市内にある、atelier Kibaco株式会社という建築関係の事業者でございます。
会長	市内事業所ということで、市内経済の活性化にも寄与しているものと思います。 他にご意見などございますでしょうか。
井上(剛)委員	青年会議所も、同じく条丁目に建物がありますので、地域活性化や市内外の方が多く集まるよう発展するために、協力していきたいと思います。
佐藤委員	個人的な意見になりますが、プライベートでウォーキングを趣味としています。JRヘルシーウォークの江別コースも5年近く参加しています。他地域のコースも参加していますが、自治体とJRは連携が取れているのが気になっています。コース内にあるお土産屋さんにも立ち寄ると、特産品などが売り切れていることがあり、購買機会を損失してしまっているように感じてしまいます。せっかく江別地区の周遊促進を図るということであれば、JRや商工会議所などとの連携をすることで、よりよい取組になると思います。
商工労働課長	市といたしましても、旧岡田倉庫のみならず、江別駅周辺の周遊促進など、地域全体の活性化を目指して、関係機関と連携して事業を進めていく重要性を感じています。現在も、JR江別駅とも連携しながら進めているところでございます。 令和8年度の旧岡田倉庫のプレオープンや令和9年度の旧岡田住宅オープンのタイミングに合わせて、ウォーキングコースなどの設定を進めていくことになるとは思いますが、その際には、JR江別駅との連携を一層深めるほか、井上委員からご意見があったとおり、地域の関係機関ともさらなる連携の上、より効果的に事業を進めてまいりたいと考えております。
会長	かわまちづくり支援制度を活用した観光振興は全国各地で行われていますので、この制度を活用する他の自治体と連携することを検討してみたいかと思いますが、国土交通省が毎年かわまちづくりに取り組む事例の中から「かわまち大賞」を表彰していますが、令和6年度は平取町が大賞を受賞しました。その関係で、現在、北海道のかわまちづくりが注目を浴びています。このような地域と連携を深めれば、江別市の事例をPRするチャンスが生まれますし、関心も持った方々が江別市に訪問してくれる可能性が広がります。 商工労働課の説明に対して、その他ご意見などないようであれば、次の報告に進行させていただきます。 続きまして、観光振興課の主要事業につきまして、ご説明をお願いいたします。
観光振興課長	観光振興課の主要事業について説明(資料5ページ)

会長	<p>レンタサイクル事業に関連する取り組みとなりますが、過去の審議会において、江別市でサイクルツーリズムを推進していきたいということを伺いました。このレンタサイクル事業との関連はありますでしょうか。</p>
観光振興課長	<p>レンタサイクル事業においては、サイクルツーリズムの実現に一役買う事業であるとは考えていますが、一般的なサイクルツーリズムで使用されるようなサイクリングロードなどがまだ市内では整備されていないことから、現状は、市内周遊観光を中心とした事業となっております。</p>
会長	<p>先ほどヘルシーウォークのお話がありましたが、市内に点在している魅力的な場所を周遊するには自転車が効率的な移動手段となります。サイクルツーリズムとまでは言わずとも、商工労働課とも連携しつつ、効果的に事業を推進してほしいと思います。</p> <p>また、予算の都合もあると思いますが、自転車の台数が少ないと感じます。団体が来訪したら個人客に対応できなくなりますので、台数の増加を検討すべきと考えます。</p> <p>他にご意見などございますでしょうか。</p>
杉野委員	<p>観光振興を推進するのであればれんがが有力な資源になると考えます。江別市がれんがの産地であることをもっと発信していくべきです。北海道の赤れんが庁舎にも使用されていますし、北海道遺産にも登録されています。赤れんが庁舎の2階には北海道遺産を紹介する展示室があって、江別市のれんがが展示されています。江別市と関連するものとなれば、小麦が原料となるラーメンもここで紹介されています。赤れんが庁舎のような観光客がたくさん訪れる場所、また札幌市のような賑わいのある場所で江別市の観光資源をPRすることが大事だと思います。</p>
会長	<p>危機感をもっている多くの自治体が特産品や地域資源のPRに力を入れています。江別市もかつては、食、農業、れんがといった地域資源をアピールポイントとする観光計画を策定しましたが、その目標は期待されたレベルに到達できなかったのではないのでしょうか。食や農業も江別市の魅力をアピールできる分野であり、えべちゅんラーメンや煉瓦もちなどといったご当地グルメがあるのですが、食や農業は今以上に観光振興に効果が発揮できるポテンシャルを持っていると考えます。新たなご当地グルメの創出なども期待できると思うのですが、いかがでしょうか。</p>
奥村委員	<p>お話にあったご当地グルメのような企画は、事業者側の意欲が非常に重要になってくると思います。例えば北見市のご当地グルメであるオホーツク北見塩焼きそばの場合、某旅行雑誌と連携して、地元でとれる玉ねぎとオホーツクの塩を活用して企画されたものです。こういった地元産の食材を活用した取組が重要であると思います。</p> <p>また、市内にあるえみくろは、市内事業者がよく活用している施設であり、自分たちで試作・試食をしつつ、かつ、不特定多数の方にサンプルワークができるという点で、非常に優れている施設であると思います。こういった江別ならではの施設や農産物を有効活用することで、新たな特産品を切り開く余地はあると思います。</p>
会長	<p>新鮮な地元産農産物が市民に供給されていますし、それを調理して試作・試食できる施設が市内にはあるとのこと。そういった資源を活用してご当地グルメ振興に結びつけていただければと思います。</p>
岸本委員	<p>商店街でもご当地グルメ振興を実行できる余地があると思います。残念ながらすでに閉店してしまいましたが、えべちゅんラーメンを独自の視点で活用していた店舗もありました。江別市には魅力的な材料はそろっていると思いますので、地元の人々の発想で新しい企画をしていくことは可能だと思います。</p>
杉野委員	<p>北海道の食の祭典イベントを東京で開催していることを報じた新聞記事を読みました。このような多くの人々が集まるイベントなどに出席して、江別の食をPRしてほしいと思います。江別市内でPRを行うだけでなく、江別市外でもPRしていくことに大きな効果があると思っています。</p>
観光振興課長	<p>東京でのイベントには、江別市のほか、江別市内の事業者も出展しており、江別市の物産品の宣伝を行っているところでございます。</p> <p>また、北海道赤レンガ庁舎のリニューアルイベントにおいても、江別市からお店を出させていただいて、ミニチュアレんがや煉瓦もちの販売などもしており、江別市外でのPRにも力を入れています。</p>
裏委員	<p>先ほど某旅行雑誌との連携のお話もありましたが、そういった大規模の宣伝媒体などの活用による市内外へのPRなどは行われているのでしょうか。</p>

観光振興課長	旅行雑誌などの宣伝媒体の広告への出稿を企画政策部のシティプロモート担当から行っていたほか、市の観光協会からも各広告への出稿を行っています。
裏委員	広告のほか、先ほど北見市の例を挙げていただいたような、その市の産物を生かした企画などは検討されているのでしょうか。
経済部長	委員のみなさまからご意見をいただいたように、江別市の魅力を市外へさらに発信していくことの重要性というのは、我々も同様に考えておりました、継続して力を入れていきたいと思っております。 今年度、シティプロモート担当から市外への情報発信を体系的に取り組んでおりました、その一つとして、DJのヒロ福地さんをアドバイザーとして任命させていただき、月に1回FMノースウェーブにおいて江別の魅力を発信していただいております。そのほか、現在製作中ですが、江別に特化したテレビ番組を作成し道内で配信する予定となっております。 委員のみなさまがおっしゃられているとおり江別市には様々な魅力がありますので、今後も、市外にも強く発信していきたいと思っております。
会長	観光振興課の説明に対して、その他ご意見などないようであれば、次の報告に進行させていただきます。続きまして、農業振興課の主要事業につきまして、ご説明をお願いいたします。
農業振興課長	農業振興課の主要事業について説明（資料6～7ページ）
会長	ただいまの説明に対して、ご意見などございませんでしょうか。
西委員	RTK基地局の稼働は、使用している農業者からは非常に好評であります。ただ、今後の人口減少に伴い農業者が減っていく中で、それでも1経営体当たりの面積は小さくならないというのが課題であると思います。少しでも効率よく農作業ができるように基盤整備をすることが一番大事だと考えています。 今回はソフト面での整備が主になってくると思いますが、今後は基盤の整備にも力を入れていただきつつも、その上で過剰な投資とならないよう、市として慎重に検討を進めていただきたいと思います。
布施委員	スマート農業を進めていく中で、何が足りなくなっていくのかと必要となってくるのかというところの議論も必要になると思っています。そういった計画を立てていく際に、我々も参加していきたいと思っておりますし、委員のみなさまがおっしゃられた江別市の魅力的な農産物を守っていくために取り組んでいきたいと考えています。
農業振興課長	お二人から貴重なご意見をいただいたとおり、我々といたしましても、江別の農業を守っていくために何が必要なのか、生産者のみなさまや農業協同組合をはじめとした農業関係団体のみなさまと日頃から協議していきながら、丁寧に進めさせていただきたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
会長	スマート農業と関連しますが、酪農学園大学は令和8年4月1日に農環境情報学類という学科を開設し、スマート農業や情報関係の分野に関する教育・研究にも力を入れていく予定です。今後、これらの分野で、ぜひ市とも連携を図っていければと思っております。
農業振興課長	来年度から新しい学類が開設されることに関しては、すでにコンタクトを取らせていただいているところでございます。 引き続き酪農学園大学とも連携を深めさせていただき、スマート農業の普及促進に努めてまいりたいと思います。
佐藤委員	ほくでん総合研究所では、ドローンや無線の技術に関わる研究を行っていますので、スマート農業に関してお力になれることがあればお声がけいただきたいと思います。
会長	農業振興課の説明に対して、その他ご意見などないようであれば、次の報告に進行させていただきます。続きまして、企業立地課の主要事業につきまして、ご説明をお願いいたします。

企業立地課長	企業立地課の主要事業について説明（資料８ページ）
会長	ただいまの説明に対して、ご意見などございませんでしょうか。
中野委員	参考として、企業立地補助金のうち、雇用補助金について、利用実績を教えてくださいませんか。
企業立地課長	雇用補助金につきましては、受付期間が限られているものでございますが、令和６年度は１０社に支給しております。
会長	サテライトオフィス設置推進補助金についてコメントいたします。江別市の人口は、前回の国勢調査で増加が確認されましたが、今後減少に転ずると予想されます。減少を少しでも緩和させるためには定住者の受け入れを促進すべきと考えますが、サテライトオフィスを設置する企業が増えればその実現が見込めます。全国各地の動向をみると、中核都市に隣接する市町村は、概ねインフラが整備されており、生活の利便性が高く、地価が中核都市よりも安いといった特徴を有しています。よって、人口流入のポテンシャルは低くありません。こうした特徴を活かし、同時に様々な地域振興策を推進し、人口増加を果たしたケースとして東川町が頻繁に紹介されていますが、江別市もこうしたポテンシャルを持っていると言えます。それを引き出すサテライトオフィスの設置に関わる事業を、今後もＰＲしていただきたいと思います。
企業立地課長	サテライトオフィス設置推進補助金につきましては、企業立地課において、企業誘致のパンフレットを作製して道内外に周知しており、その中に当該事業のチラシを挟み込んでＰＲしております。 また、そのチラシの中に、民間事業者が実施しているサテライトオフィスについても併せて紹介しているところでございます。
杉野委員	江別工業団地に、土地が余っているかの相談が飛び込みで来るがありますが、現状、江別工業団地内には土地が余っていないため、断るしかない状況が続いています。現状や今後の、市内その他地域において、案内できる土地などの情報はありますか。
企業立地課長	ＲＴＮパーク内の一部が準工業用地という用途地域になっており、工場や大規模店舗も立地できる土地ですが、現状、開発が進んでいないため、どのようにしたら活用していけるかを検討しているところです。 また、市街化調整区域になってしまいますが、江別東ＩＣ周辺とジョイフルエーカー周辺の地域を、地域未来投資促進法に基づいた重点促進区域と設定しております。これは、通常、市街化調整区域では工場や物流用地の設置ができないこととなっておりますが、重点促進区域に設定することで、条件を満たせば工場などの進出ができるようになります。 そのため、工場や物流用地の進出に関するご相談などがございましたら、ぜひ企業立地課をご案内いただければと思います。
岸本委員	陶芸の里周辺エリアに関する質問ですが、ラピダスなどのＩＴ関連企業の誘致に関わる土地利用は視野に入れているのでしょうか。
企業立地課長	現時点では、ＩＴ関連に限った利活用は考えておりません。当該区域は、非常に起伏が大きいほか、取り付け道路などの環境にも特徴がございますので、道路やインフラの整備方法やどういった事業者が適しているのかなど、検討を進めているところでございます。
岸本委員	江別には土地がないという話をよく聞きます。しかし、お話のあった江別東ＩＣやジョイフルエーカー周辺などが該当しますが、土地がないのではなくて、土地が活用されていないと思うのです。そのような土地を生み出せば良いと思いますので、スピーディーに進めていってほしいと思います。
企業立地課長	ご指摘いただいたとおりだと思いますので、今後も情報収集に努めつつ、スピード感を持ちながら進めてまいります。
裏委員	先ほどお話がありましたＲＴＮパークは、今年度に整備を進めていくことと思いますが、江別東ＩＣ周辺やジョイフルエーカー周辺の地域については、これから順に整備が進められていくということでしょうか。

企業立地課長	<p>陶芸の里もそうですが、江別東IC周辺やジョイフルエーカー周辺の重点促進区域については、民有地となっておりますので、市が主体となって直接整備することはできません。</p> <p>ただ、陶芸の里に関しては、道路の状況などの課題に対して、必要となるインフラ整備の調査をしておりますし、重点促進区域に関しては、ご相談をいただいた際に、こういった土地の使い方ができるのかを一緒に検討するほか、地権者の方を紹介するなどの対応により、民有地での実際の土地の売買に繋げていきたいと考えております。</p>
裏委員	<p>民有地のため、ご相談があった際に対応するとのお話がありましたが、市としてはご相談がないと動けないものなのでしょうか。何らかの手段によってアプローチすることはできないのでしょうか。</p>
企業立地課長	<p>陶芸の里や重点促進区域については、国のホームページでも紹介されるなど、対外的にも発信しております。</p> <p>その上で、ご相談をいただいた際に適切なご案内ができるように準備を進めていくことで、両輪での取り組みを進めているところでございます。</p>
赤川委員	<p>未利用地活用調査では、企業誘致に限らず、未利用地全体のデータがあるのでしょうか。また、そのデータは市民でも閲覧できる形で公開されているものなのでしょうか。</p>
企業立地課長	<p>今回の未利用地活用調査では、企業誘致向けの未利用地を調査したものであり、市内全域にある未利用地すべてを調査したものではありません。</p> <p>また、まずは陶芸の里エリアを優先的に調査しておりますが、昨年度の未利用地活用調査において、ある程度利活用の可能性があるエリアとして挙げられた候補地がございます。これらの候補地は、議会に対しては報告しておりますが、現時点ではホームページなどで公開しているものはございません。</p>
赤川委員	<p>それは、市民から要望があればホームページなどで公開されるものなのでしょうか。</p>
企業立地課長	<p>現時点では、公開する予定はございません。理由といたしましては、これらの候補地はいずれも市街化調整区域であり、通常は開発ができない区域となっております。先ほど説明した重点促進区域のように、一定の条件を満たせば開発の可能性はあるかもしれませんが、これを公開することでかえって誤解を招くおそれもございますので、混乱を避けるためにも現時点では公開は考えておりません。</p>
会長	<p>土地利用に関しては総合的な視点から見て判断する必要があります。ラビダスの社長が「北海道バレー構想」を公表しました。それによると、苫小牧市から石狩市までのエリアがデジタル産業の集積地となる可能性がある自治体とされています。江別市もその中に含まれているわけで、工業振興に対する期待が高まるのはごもっともだと思います。</p> <p>しかし、江別市の基幹産業は工業ではありません。農業も基幹産業です。陶芸の里周辺、それと江別東ICとジョイフルエーカー周辺は、一見すると空き地が広がっているように見えるかもしれませんが、農業地帯でもあるのです。牧場も少なからずあって牧草が作付けされた草地在り造成されています。また、農業地帯に隣接していることから、市街化調整区域に指定された土地もあります。これらが空き地に見えるのかもしれませんが、農業の多面的機能と言われる洪水防止や自然環境維持に役立っている土地でもあるのです。このような実態も踏まえた上で、工業的土地利用を検討する必要があると思います。</p>
会長	<p>全体を通して、事務局や委員の皆様から、その他何かございますか。</p>
一同	<p>なし。</p>
会長	<p>ここで審議を終了とさせていただきます。</p>
会長	<p>閉会の言葉</p>